

クラブ名 : 広島西南ロータリークラブ

プロジェクト名 : 「東北まち物語紙芝居化100本プロジェクト」

東日本大震災の被災地に古くから伝わる物語を掘り起し、これを紙芝居にして被災地で上演し、100本の紙芝居を贈る。

実施場所 : 紙芝居制作 広島  
 まち物語の調査 東日本大震災被災地(福島県いわき市)  
 紙芝居の講演 東日本大震災被災地(福島県いわき市)

プロジェクト実施内容

「まち物語制作委員会」により2012年から行われている「東北まち物語紙芝居化100本プロジェクト」の為に、紙芝居10本と、これを上演するための木製の枠10個を制作し、完成した紙芝居を同委員会を通じて被災地のボランティア団体等に贈呈した。

プロジェクトの効果

現地では、故郷に伝わる民話を題材とする紙芝居を上演するうちに、原発事故や地震・津波の被害で故郷を離れた人たちの望郷の思いを駆り立てると共に、故郷を同じくする人々の心を癒していくこととなった。現在では数多くの地元団体によって「まち物語制作委員会」が制作した紙芝居が上演されている。

本プロジェクトで贈呈した紙芝居の上演活動は、上演当日のみならず、練習も含めて多くの関係者が継続的に共に力を合わせて取り組んでおり、そのため上演する側のコミュニティの結束をより強化すると共に、紙芝居を視聴する被災者にとっては、自らの地域の歴史や故郷との繋がりを再認識したり、現在の大変な避難生活の中における癒しや、将来に向かっていく心強さや、将来に対する希望を見出すきっかけにもなっている。また、被災者を受け入れている地域の住民や被災地を訪れる観光客にとっては、東日本大震災や被災者の現状に対する理解をより深めたり、被災者の心情を感じたりする事になり、それが被災者との新たなコミュニケーションを持つ機会となって、被災地では紙芝居を媒体とした新たなネットワークが構築され、地域のコミュニティ再生に役立っている。今後も被災地各地で上演、利用され、東日本大震災の復興に役立っていくものと予想される。

原発復興の作業員を受け入れたいわき湯本温泉の女将の皆さんの奮闘を題材にした紙芝居は女将さん達自身により上演されており、地元ではこの紙芝居を観光にも活用しようと活動した結果、平成27年4月から6月にかけて行われる、「デスティネーションキャンペーンふくしま」に採用されることが決定した。

現地訪問活動等

